

ACE 人権通信 12月

人権教育・啓発通信：「エース」
 発行：阿南中学校家庭・人権教育部
 (No.8) 2022年12月23日(金)
 文責：人権教育主事 中岡 和也

12月に入り、より一層寒さが厳しくなりましたが、阿南中生のみなさん、「体調は大丈夫ですか？」一年も早いもので残りわずかとなりましたが、みなさんにとって今年一年はどんな年でしたか？一年の終わりだからこそ自分自身を見つめ直したり、来年に向けて目標を考えたりできる時です。自分を見つめ直しながら頑張れたことや反省すべきことなどを振り返ってみましょう。

今回の人権通信では、11月24日(木)に行われた阿南中学校人権教育授業研究会の様子や11月25日・26日に実施した人権ふれあい子ども会の冬季合宿、12月10日(土)にあった見能林支部人権教育研究大会など人権に関するさまざまな行事に阿南中生が参加し、頑張った姿をお伝えします。阿南中生一人一人がいろいろな場所で頑張っています。その一人一人の頑張りを認めたり、自分自身の頑張りにつなげたりできる人であってください。



◇実り多い 阿南中学校人権教育授業研究会

11月24日(木)に本校で人権教育授業研究会を実施しました。生徒と共に「差別の実態から深く学ぶ」授業研究会となりました。1-1では障がい者差別について学習を通して、誰もが過ごしやすい学級について考えました。2-1では、部落差別により教育を受ける機会を失った識字学級生の思いや識字学級で学ぶことの意味について考え、差別をしないことや差別をなくすために自分に何ができるか意見をまとめていました。3-2では、結婚差別についての学習を通して、未だ部落差別が存在し、人生の大切な時期(ライフステージ)に被差別部落出身者が苦しい、悔しい思いをしていることや差別が人を不幸にしていることを学びました。絶対になくさないといけないという強い思いをもつことができました。また、現在の自分の生き方について振り返り、差別解消に向けて自分はどんな生き方ができるか考えることができていました。1-1・2-1・3-2のみなさんの頑張っている姿、素敵でした。戸田先生・山田聖人先生・吉野先生の熱心な授業、素敵でした。

メガネと補聴器を学習して、カスミちゃんのクラスのような過ごしやすい学級にしていくために、それぞれの人の個性や特徴を認めあえるようなクラスにしていきたいと思いました。この学習を生かして過ごしやすい学級をつくるために自分にできることをしていきたいです。

(1年 岡久 晃大)

みんなの個性や意見を認め合って、仲のいいクラスにする。そのためには、みんなのいいところを見つけていくといいクラスになると思う。そして一人一人の意見を大切にしたい。

(1年 竹森 優)

「相手の気持ちを想像する」そして「行動する」。これは、人権を守るために欠かせないことであり、阿南中学校の掲げる「やさしさ日本一」につながっていると、授業をする中で強く感じました。困っている人を手伝う。がんばっている人を見守る。互いの違いを認める。時には、ダメなことをダメと言える。それぞれに行動の仕方や、やさしさの表し方は違っても、その違いは一人一人のよさです。自分にできることに取り組んでいきましょう。そして、人権学習は授業でも日常生活でも、どこでもできます。共に学び続けていきましょう。

(戸田先生よりメッセージ)



自分はまだ差別をなくそうとする人にはなれていないので、まずは差別をよく知ることが今の自分には大切だと思いました。差別を知るだけで傷つく人も減っていくし、差別をよく知っている人は差別をなくそうとする人にもなれると思います。まず自分たちができることは差別についてよく考えることなので、もっともっと深く知っていきたくと思いました。

(2年 中岡 諒兜)

自分はまず差別をしない人になって、それから差別をなくそうとする人になりたいです。その気持ちを忘れずにしっかり行動し、周りの人を大切にしていきたいです。ちょっとだけの行動でも、差別をなくそうとしている人はこの世の中にいると思うけど、まだ差別をする人がいると思うのでまずその人に「そんなことするな」とか「相手だけじゃなく自分も傷つくよ」とかを言える人間になりたいです。

(2年 豊川 天道)

私は、識字学級について学び差別をなくしたいという気持ちがより深まりました。差別をすると、どのような思いをするのか？された人は本当にとっても辛い思い、悲しい思いをしたいと思います。みんないっしょの人間です。自分の命はもちろん大切だけれど人の気持ちや思いを考えて差別をなくしていきたいです。差別をなくすのも行動にだし、差別をなくしてよりよい世の中にしていきたいです。

(2年 姫路 玲菜)

2-1全員で差別について知り、真剣に考え、意見を交換することができました。それこそが「差別をなくそうとする人」になる、その第一歩だと思います。他の人権課題や日常生活でも、同じことが言えますね。まずは2-1のみんなから、阿南中学校から、差別をなくそうと行動できる人を増やしていきたいです。ちょっとしたことでいい。全員で一歩を!!

(山田先生よりメッセージ)



今、そのときを大切に、自分が正しいと思うことを貫くことが大切だと思いました。人を思い、人に思われるような人格者になり、周りをよく見て差別をしない人間になりたいです。その瞬間を心から大事にし、いっぱい楽しんで生きられるようになりたいと思います。

自分の個性を認めて、他人と違っていても、違っていても当たり前という考えのもとに今を生きていきたいです。また、他人のことを理解し、国が違ったり、出身地がどこであったりしても、分かり合えるような関係をつくっていききたい。

愛子さんたちの生き方からみんなが学んだように、私も中学生のときに、同和問題について学習を通して、「差別を見抜く力をつけてほしい」という思いを学びました。それ以降、「差別を見抜く力をつけていくこと」が私の光ある生き方になっています。差別に気づき、差別をしない、許さない。今回の授業を終えて、これからもみんなと共に光ってほしいという気持ちがさらに強くなりました。3年2組のみんなと同和問題について深く考えることができよかったです。ありがとうございました。

(吉野先生よりメッセージ)



◇人権ふれあい子ども会 冬季合宿

11月25日・26日の二日間に人権ふれあい子ども会参加者を中心に人権学習を行いました。学習①では坂本教育長さんから識字学級生との共学を通して、学んだことや感じたことをお話していただきました。学習②では、識字学級生との交流学习をしました。文字を一緒に書いたり、生徒が質問をしたりして識字学級生の思いや願いを知り、より一層差別解消への思いが強くなりました。学習③では、森本教頭先生より冬季合宿でチューリップの球根植えが始まった経緯を説明していただき、生徒は命を大切にすることを改めて感じました。学習④では、地域の方によるしめ縄づくりを体験しました。部落差別により経済的に苦しい状況でも知恵を出し合い、技術を生かし、そして助け合いながら生きてきたお話を聴くことができました。今回の冬季合宿では、お話を聴いたり、交流学习や体験活動をしたり、部落差別の早期解決に向けて思いを1つにすることができました。



◇見能林支部人権教育研究大会の開催

12月10日(土)に見能林支部人権教育研究大会が行われました。小・中学生による人権作文発表・表彰や記念講演がありました。本校からは、1年4組の山本ゆなさんが人権作文代表者として発表をしてくれました。自分自身の差別意識に気づき、今後は差別を許さず、差別をなくしていくために自分にできることは何かを問う作文内容になっていました。記念講演では、徳島県人権教育研究協議会副会長の徳山富子さんが「私が出会った人たちから学んだこと」を演題にお話をしてくださいました。さまざまな人権課題について自身の経験も踏まえた内容でした。お話の中で「私たち人間の中に決めつけ(偏見)はないか」、「差別はしている側の問題」など自分自身を見つめ直す機会となり、今後さまざまな人権課題の差別解消に向けてどのような行動がとれるか考える講演となりました。



◇第二学年 修学旅行へ

12月14・15・16日の三日間第二学年の生徒・教員が修学旅行に行きました。1日目は、広島原爆資料館で瀧口秀隆さんによる被爆体験講話をしていただきました。瀧口さんからは、被爆時の悲惨な状況を写真等を用いて説明していただきました。「戦争は二度としてはいけない」「今回広島で学んだことを伝えてほしい」など思いや願いのこもった講話でした。身近なところから争いをなくし、一人一人を大切にしていこうという思いをもつことができました。2日目は、広島や岡山や大阪の倉敷美観地区で班別の自主研修を行いました。3日目は、大阪にあるユニバーサルスタジオジャパンで自主研修を行い、仲間との絆をより一層深めることができました。修学旅行前に不安もあったと思います。帰ってきたときに不安な気持ちが解消されていたり、修学旅行に行ってきたと思えたりするのは「学級や学年の仲間」がいたからだだと思います。一人で旅行しても楽しくないことが仲間がいるからこそ笑えたりできるのだと思います。今回の行事を通して、第二学年の仲間を大切にできる人であってほしいです。

瀧口さんのお話を聴いて、当時の状況を想像するだけで胸が苦しくなりました。戦争に行つて犠牲になってしまった人々を考えると、なんでその人たちはこんな人生を送らなければならないのかと思いました。戦争をして一体何が解決するのか。二度と戦争はしてはいけないと思いました。

(2年 山下 優葵)

平和講話を聴いて戦争は絶対にしてはいけないと思いました。講演の中で互いの違いを認め合うことの大切さや原子爆弾の使用により現在も苦しい思いをしている人がいることに気づきました。当時の方は「普通に生きていただけなのに」戦争によって夢や希望・命まで失いました。瀧口さんのお話にあった「戦争は人間のしわざ」という言葉を忘れず、今回学んだことを伝えていきたいです。

(2年 井上 柚希)

